

方剂名		効能	生薬組成
書籍		主治および証	病機 方意
祛湿剂 利水渗湿剂 2			
<p>ごれいさん 五苓散</p> <p>傷寒論</p>	利水渗湿・通陽化気	<p>猪苓 9g・沢瀉 15g・白朮 9g・茯苓 9g・桂枝 6g</p> <p>水煎し服用する。散にし1回3~6gずつ服用してもよい。</p>	<p><主治></p> <p>蓄水証（外有表証・内停水腫） 頭痛、発熱、口渴がつよく水分を欲するあるいは水を飲むとすぐに吐く、尿量減少、舌苔が白、脈が浮など。 霍乱 突然の嘔吐、下痢、尿量減少など。 水湿内停 浮腫あるいは下痢で、尿量減少を伴う。 痰飲（臍下水気） 臍下の動悸、水様物の嘔吐、めまいなど。</p> <p><病機></p> <p>いずれも水湿内停による病変であるが、病機が異なっている。 蓄水証は、風寒の邪が侵襲して太陽表証を呈すると同時に、太陽経脈を通じて邪が膀胱に伝入り、太陽膀胱の気化を阻害して水湿を停滞させた状態であり、太陽の経腑同病に相当する。頭痛、発熱、脈浮は表証であり、膀胱の気化不利で水湿が排出されにくいので、小便不利（尿量減少）がみられ、舌苔が白は邪が化熱していないことを示す。水湿が下焦に内停して壅滞し、三焦に影響が及んで気機を阻滞し、津液が上承できないために口渴が生じて水分を欲するが、気機が阻滞されているので飲水は津液に化生されないままに体内に停滞する。それ故、三焦の気機が更に阻滞され、口渴がより強くなって水分を欲するが、水分の停滞があるので飲むとすぐに吐出し、吐出した後にまた水分を欲するという症状があらわれる。これを「水逆」という。 霍乱は、夏に生冷物を暴飲暴食して脾胃を損傷し、湿邪が昇清降濁を失調させるために生じる上吐下瀉である。 水湿内停は、脾虚で水湿の運化が低下したために生じる。内停した水湿が皮膚に外溢すると浮腫が生じ、大腸に下注すると泥状～水様便がみられる。水湿が通常に排出されないために、尿量減少（小便不利）を呈する。 痰飲（臍下水気）は、膀胱気化不足で水湿が排出されずに臍下に停滞したために生じる。臍下に水飲があるために動悸し、水飲が上逆すると水様物の嘔吐が生じ、飲邪により清陽の上昇が阻滞されるとめまいが現われる。</p> <p><方意></p> <p>利水渗湿と通陽化気によって小便を通利し、水湿を除去する主方である。 主薬の沢瀉は膀胱に直達して利水渗湿に働き、淡滲の茯苓・猪苓は利水下泄を強め、白朮は健脾により水湿の運化を促進し、共同して三焦を通利させる。辛温の桂枝は、太陽表邪を外解すると共に、通陽により膀胱、三焦の気化を促し、水湿を蒸化して上承と下泄を回復させる。なお、利水渗湿を通じて、水湿下注による泥状～水様便が消失すると共に小便が通利するところから、水湿の「分利」と称される。 蓄水証に対しては解表、利水渗湿、通陽化気により、霍乱には、水湿の分利により、水湿内停には健脾化湿と分利により、痰飲には化気利水により、それぞれ効果を現わす。</p> <p><参考></p> <p>五苓散証と茯苓甘草湯証の口渴による鑑別は、 五苓散証の場合は、水湿が下焦に内停して壅滞し、三焦に影響が及んで気機を阻滞し津液が上承できないために口渴が生じて水分を欲する。 茯苓甘草湯証の場合は、水飲が心下に停滞し、三焦には影響が及んでいないために口渴はなく、停飲による心下悸と、陽気布散が妨げられたことによる厥（四肢の冷え）がみられる。 傷津による尿量減少、口渴には禁忌である。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 口渴、尿量減少するものの次の諸症；浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸カタル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、胃内停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病</p>
<p>しれいさん 四苓散</p> <p>明医指掌</p>	渗湿利水	<p>五苓散 一桂枝</p> <p>水煎し服用する。</p>	<p>主治は、内傷飲食有湿による尿量減少、泥状～水様便。 本方（四苓散）は水停内停による諸証に有効で、渗湿利水薬のみからなる。やや熱に偏している場合に適する。また、五苓散証で、悪風、微熱がないものにも用いる。</p>
<p>しゅんたくとう 春沢湯</p> <p>証治準繩</p>	温陽化気・益気摂水	<p>五苓散 + 人参 6g</p> <p>水煎し服用する。</p>	<p>主治は、肺気虚、不能摂津と、腎失気化、水飲犯肺による咳嗽および頻尿、遺尿、尿失禁などの症候。 肺気虚で、津液の下泄を制御できないために頻尿、遺尿、尿失禁などが生じ、腎陽不足で、化気行水できずに水湿が貯留して肺を上犯するので咳嗽がみられる。 五苓散で化気行水し、人参で益気補肺して水液の下泄を制約するもので、化気行水と、益気摂津を併用した方剂である。</p>